

NO
77
FEBRUARY
2025

miyazaki

障害者社会参加推進 センターだより



【contents】

1～2p

宮崎県障害者社会参加推進センター

6p

日本オストミー協会 宮崎県支部

10p

宮崎県身体障害者団体連合会

3p

宮崎県手をつなぐ育成会

7p

宮崎県立視覚障害者センター

11p

宮崎県身体障害者相談センター

4p

宮崎県障がい者スポーツ協会

8p

宮崎県精神保健福祉連合会

12p

宮崎県精神保健福祉センター

5p

宮崎県向声会

9p

宮崎県難病相談・支援センター
全国脊髄損症者連合会 宮崎県支部

宮崎県障害者社会参加推進センターだよりは、宮崎県障害者社会参加推進協議会の構成団体（当事者団体等）のご協力のもと編集及び発行しております。

発行：宮崎県障害者社会参加推進センター

（ 宮崎市原町2-22 TEL 0985-26-2950 FAX 0985-55-0258 ）



topic 1

“こころ”のふれあうフェスタ2024を実施しました

11月9日(土)に新富町文化会館イベントホールにて「こころ」のふれあうフェスタ2024を開催しました。

新富町での初めての開催でしたが、約200名の方々に足を運んでいただき、盛会のうちに終了することができました。

オープニングは、舞鶴一座秋月鼓童の笛と太鼓のパフォーマンス、三歩人による書道パフォーマンス！太鼓の迫力と静寂の中での見事な書に引き込まれました。

ステージ発表は、子ども達による元気なダンスやしつとりとじっくり聴かせる歌唱、ピアノと歌の楽しいステージ、大人数でのにぎやかな楽器演奏など9組のステージパフォーマンスが繰り広げられました。

また、「みんなで学ぼう！障害者差別解消法」と題して、Socialworkらぼ代表の田畑寿明先生によるミニミニ講座も開催されました。一見難しそうな法律をとてとても分かりやすく解説いただき、共生社会について一人一人が考える機会をいただきました。

イベントの最後には、お楽しみ抽選会を開催し、多くの方の参加のもと大いに盛り上がりました。

最後になりましたが、開催にあたり御協力いただいた司会の黒木梨澄さん他スタッフの皆様にご心よりお礼申し上げます。



topic 2

障がいへの理解を深めるための『盲導犬とのふれあい体験』を実施

12月15日(日)に開催された「みやこんじょボランティアフェスティバル」内で盲導犬とのふれあい体験を実施しました。

多くの方がブースに来られ盲導犬とふれあい、また、天候にも恵まれたため屋外で盲導犬体験を実施することも出来ました。

御協力いただいた、九州盲導犬協会・さざなみの会の皆様ありがとうございました。



topic 3

障害者週間啓発活動を実施しました

12月3日から9日の「障害者週間」に合わせて、啓発活動の一環として、啓発物（啓発チラシ、福祉施設製作物などをセットにしたもの）を1,000部配布しました。

県内道の駅、自治体、県立図書館・博物館等に障害者週間の啓発コーナーを設置しました。

また、11月3日(日)の「みやざき健康ふくしまつり2024」、11月9日(土)の「"こころ"のふれあうフェスタ2024」の来場者の方への配布を行いました。

障がいのある方や福祉への理解が深まることを目指して、今後も啓発活動を続けて参りたいと思います。



宮崎山形屋での「障害者週間」懸垂幕掲揚

topic 4

「第39回障害者による書道・写真全国コンテスト」 宮崎県から1名入賞

全国障害者総合福祉センター（戸山サンライズ）主催の標記コンテストに、全国から1,026点（書道部門 828点、写真部門125点、携帯フォトの部73点）、宮崎県からは36点（書道部門35点、写真部門1点）の応募があり、宮崎県からは、書道部門で庄籠康尋さんが銅賞に入賞されました。おめでとうございます！

※「障害者による書道・写真全国コンテスト」は、障害者の完全参加と平等をスローガンとした1981年の国際障害者年を記念して、1984年に東京（新宿区戸山町）に設置された全国障害者総合福祉センター（戸山サンライズ）が主催するもので、障害のある方々の文化・芸術活動の促進と技術の向上、またそれらの活動を通じた積極的な自己実現と社会参加の促進を目的に1986年から実施されています。



「悠」
庄籠 康尋

< 相談窓口のご案内 >



障がい者差別相談窓口

0985-23-3388

soudan@miyashinren.jp



障がい者110番

0985-26-3040



障がいのある方が障がいのない方と同じように日常生活を営むことができるよう、障がいを理由として不利益な取扱いをされたり、必要に応じた支援などの合理的配慮を行わないなどの差別に関するご相談に応じます。

障がいのある方が安心して生活ができるようにさまざまな問題について情報提供や助言を行っています。障がいのある方やそのご家族または関係者からの相談に応じます。

(一社)宮崎県手をつなぐ育成会

第63回九州地区手をつなぐ育成会宮崎大会を開催しました

令和6年11月9日(土)に、宮崎市民プラザにおいて「第63回九州地区手をつなぐ育成会宮崎大会」を開催いたしました。

本県では、平成22年以来久々の開催となりましたが、九州各県から知的障がい者ご本人やご家族、関係者など約350名の参加をいただき「笑顔で安心して暮らせるこころ豊かな社会を目指して」をテーマに、知的障がい者の思いを実現していくための意思決定支援の在り方について議論を深めるとともに、中央情勢報告や本人発表、ミュージックセラピー等の本人活動、思い出バスツアー等を実施しました。

また、大会冒頭の式典において、知的障がい者の福祉の向上に尽力された20個人、1団体を表彰するとともに、大会最後には大会決議を採択し閉会いたしました。

この大会は、会員相互の研鑽、連携、交流の場として大変有意義なものになったと思っております。

当育成会は、これからも障がいのある人もない人も共に手をつなぎ生きる共生社会の実現を目指し取り組みを進めて参ります。

この大会の開催に当たりご協力いただいた多くの方々に心から感謝申し上げますとともに、今後とも当育成会に対して、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



大会式典



八木会長あいさつ



中央情勢報告



シンポジウム



グループトーク



本人発表



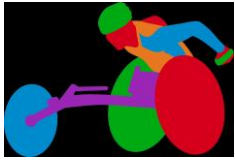
本人活動



本人活動



バスツアー



SAGA 2024

新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。



「新しい大会へ。すべての人にスポーツのチカラを。」を大会メッセージとして、第23回全国障害者スポーツ大会が令和6年10月26日(土)から28日(月)まで3日間の日程で開催され、全国から選ばれた選手と役員が佐賀県に集結しました。

本県からも選手37名、本部役員38名の合計75名の選手団が参加し、国内最大級の吉野ヶ里遺跡や日本三大松原の「虹の松原」など、様々な名所のある佐賀県内の各競技会場において熱戦が繰り広げられました。

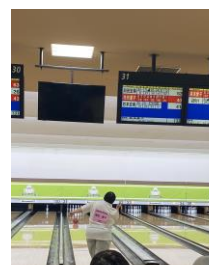
開会式には、「SAGAスタジアム」に秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、本県選手団を代表して陸上競技、水泳、ボウリングに参加する選手・役員39名が、小雨の降る中にもかかわらず堂々の入場行進を行いました。

この大会での本県選手団は、陸上競技・水泳・アーチェリー・卓球（STTを含む）・フライングディスク・ボッチャ・ボウリングの7つの個人競技に参加しました。選手は、宮崎県代表としての自覚をもち、十分とは言えない練習環境の中でコーチとともに精一杯努力をし、全力で競技した結果、金11個、銀14個、銅12個の合計37個と昨年の鹿児島大会に迫るメダルを獲得することができました。

これも、これまでサポートをいただいたコーチや家族、関係者の皆様、声援を送っていただいた県民の皆様のおかげであると深く感謝いたします。

最終日の競技終了後、全選手が「SAGAアリーナ」に集まり、高円宮妃殿下の御臨席の下、閉会式が行われ、佐賀県出身の歌手、鷺尾伶菜さんのパフォーマンスで会場内が一体となり、最高の盛り上がりを見せる中で閉会しました。

今年度より、国体の愛称で親しまれてきた国民体育大会が「国民スポーツ大会」へと名称が変わりました。それは、この時代に合うカタチが求められているからです。今回の第23回全国障害者スポーツ大会SAGA2024では、新しい大会、そして、スポーツ文化の新時代の第1歩となるために、「する～選手も、選手でない人も、誰もが楽しんでスポーツに参加できる大会へ」「観る～観戦を通して、感動を共有できるシーンを創出し、エンターテインメント性の高い大会へ」「支える～佐賀のスポーツシーンを支え、みんなで力を合わせ、つくる大会へ」をモットーに、県民の知恵と力を出し合う素晴らしい大会でした。令和9年度に全国障害者スポーツ大会の開催が決定した本県としては、学ぶところの多い大会であり、参加した本県の選手たちも、大きな刺激を受け、今後の成長に繋げていく実りの多い大会となりました。



宮崎県 「向声会」について

宮崎県向声会は、喉頭がんや食道がんなどで咽頭を摘出せざるを得ない人々が、手術後一日でも早く日常生活及び社会生活を営めることを目的として設立されたものです。

発声方法も、食道発声・高齢化に伴うEL「電気喉頭」発声・シャント発声など多様化しています。スマホなどのSNSの利用で取替えて話さなくても、コミュニケーションが取れるようにもなっております。日本喉摘者団体連合会などでは、治療方法の変化や症状の多様化などの変化で「楽に楽しく…」をモットーに、より実用的な発声を目指しています。

これまで宮崎県では、昭和48年宮崎県向声会設立（会長一三好勇氏）・遠隔地巡回指導事業・シンポジウム開催・小冊子作成・九州ブロック指導者養成研修会・発声指導などの事業が取り組まれてきました。

現在、月2回の発声練習を行っていますが、参加者の減少が著しく会の続行が難しい状況です。

会員の個人によって発病の箇所、手術の方法、手術後の回復、それぞれに異なり、発声の進歩レベルも個人によって差異が生じます。

しかしながら、同じ苦勞を抱える者たちが半月に一度集まって、お互いの健康を確認しながら発声練習に取り組む事も楽しいひと時です。

発声の際の苦勞話や日常生活における失敗談等を聞くだけでも大変参考になります。



(会員談笑のひとこま)

喉頭を摘出された方は、是非ともご参加ください。

指 導 者	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小牧 靖 「食道発声法」 ※日喉連認定咽頭摘出者発声訓練士 ・ 岡崎 眞澄 「電気式人工喉頭法」 	
・ 練習会場一宮崎市原町2-22 ・ 福祉総合センター内(月2回) ※原則として第2火曜日、第4火曜日(13時30分から)	
889-2541 日南市吾田東5丁目13-1 宮崎県向声会 会長 矢野 睦義 電 話/FAX (0987-22-2435)	携 帯 本人 090-5724-1954 (EL で聞きにくいかも…) ※妻 080-1707-6162 (支える事の相談等)



(公社) 日本オストミー協会 宮崎県支部

ストーマケア体感型アプリ開発

(公社) 日本オストミー協会は、オストメイト（人工肛門・人工膀胱造設者）が安心して暮らせる社会を目指しているオストメイトによるオストメイトのための障害者団体です。(宮崎県内で、オストメイトの方は約2000人で会員数は45人、賛助会員は2名です。)
以下の活動を行っています。

- ①オストメイトの社会復帰とQOL（生活の質）向上を図る。
- ②国・地方自治体や地方社会に対してオストメイトの福祉増進
- ③地区ごとに研修会・サロン会・装具の展示説明会
- ④災害時の支援・備え ⑤情報発信・啓発活動などを行っています。

【宮崎県支部の最新情報】

クラウドファンディングで資金を募り、VRトレーニングアプリ開発を行いました。

支援していただいた皆様には厚く御礼申し上げます。

VR技術を活用しオストメイトに寄り添う医療を目指す宮崎大学医学部附属病院の外科医師・WOC ナース・地元企業・装具販売店・我々宮崎県支部が参加して、「オストメイト目線・WOC ナース目線のパウチ目線でのパウチ交換」「ケア・温泉、公衆浴場入浴の入り方」などを撮影したVRアプリが完成しました。

近年の医療発達に伴い、術後の入院期間も短縮になり、術後自ら自己管理(ストーマセルフケア)を短期間で習得しなければいけないのが現状です。

この体感アプリ開発により、術前から術後にかけて「何時でも」「どこでも」「何度でも」追体験が出来るので、術前の患者の方やご家族の不安軽減につながるのではないのでしょうか。

また、VRアプリが加わることで、初めてストーマに関わる病院・介護施設などの方々に役立つ装置になることを期待しています。

まだまだ、オストメイトの認知・理解度が低迷していますので、これを機会に健常者のかたにもVRを体感して理解していただければと思います。



(公社) 日本オストミー協会 【 宮崎県支部長 甲斐 誠郎 携帯: 090-1970-2688 】
問い合わせ 事務局 〒 889-0506 延岡市南一ヶ岡 5 丁目 14-1

🎵 初めてのセンターまつり、大盛況でした！ 🎵

前回、推進センターだよりでご案内しておりました「センターまつり」についてご報告いたします。「視覚障害者を知ってください」ということをテーマに、「センターまつり」をさる9月29日（日曜日）に開催いたしました。内容は「盲導犬交流コーナー」「点字体験」、スマホ、編み物、料理などの特技を持つ方の実演や展示、コーラスやギター演奏、大正琴のステージ発表など盛りだくさんでした。

来場者を視覚障害者以外の方に広げるイベントは初めてでしたので、いかにPRして多くの方に来場していただけるかが課題でした。そこでまずは若い世代に向けてということで、それまでに交流のあった高校の顧問の先生にご相談してみました。その先生から市内の高校にも案内を勧めていただき、さらに県の生涯学習課のイベント「わたしとみんなの共生社会シンポジウム」に、出展までできました。またこうした伝手をたよりに公民館の館長さんに向けてのチラシを配布したり、センター近くの公的施設にチラシを置いていただくようお願いしたり、これまでにやったことのないPR活動を試してみました。実際にお会いしてお話してみると、これまで視覚障害者センターを知っていただく活動をやってきていないことも痛感しました。

こうして、いったいどのくらいの方が来場して下さるのが全く読めない状況で迎えた当日でしたが、いざ始めてみると、ステージ発表の行われた研修室は、イスどころか立って見る場所もなく、部屋の外の廊下から見るほどの大盛況でした。



さらに盲導犬交流コーナーでは、福岡から来てくれた2頭の盲導犬とユーザーの方の盲導犬、併せて6頭ほどの盲導犬が集い、盲導犬との交流やユーザーのお話を聞いたりして楽しんでいただけたそうです。

また調理や手芸に関しては、事前に視覚的情報も補足してある動画を作成し、当日は大型モニターで放映しました。この特技を持つお二人には時折、実演もやっていただき、来場者とのお話も盛り上がっていたようです。

さらに点字でしおりを作る体験、録音室でマイクに向かって録音する体験、スマホを視覚障害者が使用する実演などのコーナーにも、多くの方が立ち寄ってくださり、本当に嬉しく感じました。結果的に200名近くの方がこのセンターまつりに参加していただきましたが、これを機に視覚障がいについての理解や、センターの活動に興味を持っていただけたのなら幸いです。



今後もこうした啓発や交流の機会を設けられるようなイベントを続けていきたいと考えております。この場を借りて、ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました。

秋の青空定例会 in 綾

近藤 勢子

さる11月17日(日)、30名(内当事者5名、子供2人)の方々と福祉バスを利用して秋晴れのもと、綾のオーガニックファームに行ってきました。

以前から、会員数45名の方々ともっと交流を深め、当事者の人達と共に気軽に参加できる居場所を作りたいねとの熱い思いが少しずつ膨らんできました。市や県に要請しても中々財政上難しいことを感じました。ならば自分たちで探そうと、ある会員さんが綾で無農薬の野菜作りに取り組まれている方と偶然にも繋がってとんとん拍子に話が進み、畑を提供してくださることとなりました。これがオーガニックファームの始まりです。いつでも、誰でも気楽に来て草を取ったり、景色を眺めたり、お弁当を広げてもいいし、四季を感じながら憩いの場に！！との願いが叶いつつあります。

9月にレタスや人参、にんにく、ブロッコリー、大根の植え付けをし、今回少しばかり成長した野菜たちに当事者も含め皆さんとても喜んでおられました。1月には人参の収穫をする予定です。あぜ道のノビルを見つけて夕食の一品にと持って帰る人、柔らかな畑の土に触れて笑顔が溢れる人、大自然の中に身を置いてこそ心も体もリラックスできてほっこりして行くのを肌で感じたひと時でした。

お昼には馬事公苑で、輪になりお弁当を食べながら自己紹介をしました。そうそうと頷いて当事者や家族で思いを共有できたひと時でもありました。今後より一層皆さんと絆を温かくそしてより強いものにして行きたいと思うものです。





クリスマス会を開催しました

12月19日（木）、県福祉総合センター本館2階において、クリスマス会を開催しました♪♪ およそ50名の方にご参加いただきました。

前半は、今年もチェリスト浜砂なぎささんとピアニスト矢房加奈子さんによるミニコンサートを開催し、素敵な音色に癒されました。クラシック音楽に加え、オードリー・ヘップバーンの映画音楽等が演奏され、非日常の素敵な時間を楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

後半は、患者家族交流会で、皆さん難病を抱えながらどのようにお過ごしなのか、様々な事をどう乗り越えられてきたのか、日常楽しみとしていることなど、様々な事をお話しをしていただきました♪



雑感

会長 矢野光孝

2024年の漢字に金が選ばれました。オリンピック、パラリンピックには金の字が躍るようにマスコミを賑わせました。パラリンピックにもすごい感動がありました。

先人達の努力に感謝しなければいけないと思います。後輩たちにも金のすばらしさを今後見せていかなければいけないと思います。間違っても裏金の汚い部分は見せたくないと思います。

障がい者には大きく分けて先天性障害と中途障害に分かれます。読んで字のごとく先天性障害の方は生まれた時から障害をもっていますが強い精神力を持っている人が多い気がします。

中途障がい者は健やかに生まれましたが人生の途中で不幸にして障害をおってしまいました。それぞれ、悩み、苦しみながら、新しい人生を模索しながら一生懸命に生きています。

私どもの会は日本全国に支部をもつ脊髄損傷者の会です。会員に先天性障害の方もいますが、主に中途障害の仲間が中心の会です。

車椅子の利用者が移動しやすい環境整備の要望、医療の向上、生活の向上やスポーツの向上等の活動に取り組んでいる支部がたくさんあります。

宮崎県支部は会員数が30名をきり、高齢で移動が困難となり、会活動もほぼ休止の状態といっても言い過ぎではないところに来ています。

新しいリーダーシップをとる人が現れると話は別になります。まだまだ困っている人はたくさんいると思います。何か良い方法はないものではないでしょうか。

第53回九州身体障害者福祉大会・第31回九州ブロック身体障害者相談員研修会（宮崎大会）を開催しました

令和7年1月27日(月)・28日(火)、標記大会を宮崎市民文化ホールで開催し、九州各県から約770名の方が参加されました。

1日目は分科会を開催し、「合理的配慮の義務化における現状と今後の展望について」「障害者相談員活動の活性化について」の2つのテーマで議論を深めました。

交流会はコロナ以降5年ぶりに開かれました。歓迎の意味を込めた「詩の朗読、みやざき犬ダンス、フラダンス、ひよっとこ」の盛り沢山のだしものの中、約100名の方が親睦を深めました。

2日目の第1部「式典」では、福祉向上及び組織の発展強化に御尽力いただいた20名の方々（各県、各政令指定都市から2名ずつ）にこれまでの功績をたたえ、表彰を執り行いました。表彰された方々に心より御祝い申し上げます。

また、宮崎県知事、宮崎県議会議長、宮崎市長などにご来賓をいただき、ご祝辞を賜りました。

第2部「講演」では、講師に厚生労働省 相談支援専門官の小川陽氏を迎え、「相談支援体制の充実強化と身体障害者相談員について」と題し、相談支援体制について解説いただくとともに、身体障害者相談員の役割についてご講演をいただきました。

第3部「議事」では、前日の分科会についての報告、大会宣言・決議の採択が行われ、最後に次期開催地である北九州市身体障害者福祉協会理事長挨拶、がんばろう三唱の後、福祉大会は閉会しました。

今回の大会には、日章学園福祉課の2年生の皆さんにご協力いただきました。気持ちの良い挨拶と笑顔、丁寧な対応に九州各県から来場された方々も大変喜んでくださいました。



【第1分科会】



【表彰式】



【表彰者謝辞】



【知事祝辞】



【第2分科会】



【講演】



【がんばろう三唱】

高次脳機能障がい者通所教室『結(ゆい)』のご紹介

宮崎県身体障害者相談センターは、宮崎県の高次脳機能障がい総合相談・支援拠点機関に指定されており、高次脳機能障がいのある方やそのご家族などからの相談への対応、高次脳機能障がいの普及啓発等に取り組んでいます。

高次脳機能障がいとは、脳の病気やケガの後から、約束を忘れてしまう（記憶障害）、注意力や集中力が低下した（注意障害）、作業を段取りよくできない（遂行機能障がい）、感情コントロールがうまくいかない（社会的行動障害）といった症状が起ることです。

また、高次脳機能障がいは、障がいへの気づきまでに時間がかかる上、外見からは分かりにくいことから「隠れた障がい」と言われています。

そのため、高次脳機能障がいのある方の障がいへの気づきや生活上感じている支障を解消し生活しやすくなるための代替手段を学んでいただくことを目的に、高次脳機能障がい者通所教室『結(ゆい)』を開設しています。

『結』では、同じ障がいを持つ者や家族が少人数で集い、医師や作業療法士、心理士などの支援を受けながら障がいの特性を学び、仕事や生活に必要な代償手段を習得するプログラムに取り組んでいます。

事前に御連絡いただければ、教室を見学していただくことも可能です。

その他、高次脳機能障がいに関することをご相談などありましたら、宮崎県身体障害者相談センターまでお気軽に御連絡ください。

宮崎県身体障害者相談センター
宮崎市霧島1の1の2



TEL : 0985-29-2556
FAX : 0985-31-3553



宮崎県精神保健福祉センターからのお知らせ

ひきこもりに関する相談のご案内

- ・ひきこもって6ヶ月以上になる
- ・どこに相談したらよいかわからない

宮崎県ひきこもり地域支援センター

TEL : 0985-27-8133 0985-44-2411

※8:30~17:15 (土日・祝日・年末年始を除く)

※まずはお電話ください。



カラダのゲンキはココロから。

宮崎こころの保健室

思春期におけるこころの問題に関する相談窓口やストレス診断に加え、メールによる相談も受け付けています。

詳しくは、下記のホームページをご覧ください。

【アドレス】 <https://miyakoro.com>

精神科医による診療相談のご案内

ご本人や家族の悩みに専門の精神科医が個別に相談に応じます。

相談	主な内容	日程	時間
一般診療相談	精神的な不調全般	第1・3水曜日	いずれも 午後1時 ~午後4時 (予約制)
ストレス診療相談	ストレスによる精神的な不調、うつ病等	第2・3・4月曜日	
薬物関連診療相談	アルコール、薬物、ギャンブル等の依存症	第1・3木曜日	
思春期精神保健診療相談	思春期の精神的な不調等	第2・4木曜日	

※日程・時間は医師の都合等により変更となることがあります。

予約受付電話：TEL(0985)27-5663

家族教室のご案内

精神疾患(障がい)についての家族のための教室を開いています。精神科医等の話を聴き、病気や障がいへの理解を深め、家族の対応方法を学びます。

開催時期、内容についてはお問い合わせください。

TEL(0985)27-5663

- 依存症家族教室
- 発達障害家族教室
- ひきこもり家族教室

家族のつどいのご案内

同じ悩みを持つ家族同士が、つらい気持ちや不安を共有することで、混乱し孤立した状況から解放され、まずは家族自身が回復することを目的としたグループミーティングを行っています。

(匿名参加可)

開催日時についてはお問い合わせください。

TEL(0985)27-5663

- ギャンブル依存症者の家族のつどい
- 薬物依存症者の家族のつどい

こころの電話相談

月曜日~金曜日【午前9時~午後7時】

(土、日、祝祭日、12/29~1/3を除く)

専門の電話相談員が相談をお受けします。

※様々な悩みを幅広くお受けしています。今のつらい気持ちをただ聴いてもらいたい方もお気軽にどうぞ。

専用回線：TEL(0985)32-5566

宮崎県精神保健福祉センター付近略図



交通のご案内

【宮崎駅から】

- タクシー：約10分
- バス利用：宮崎ナナイロ前バス停まで徒歩10分
宮崎ナナイロ前バス停から7番線(下北方行)で和知川原バス停下車徒歩5分
又は8番線(平和台行)で花殿町バス停下車徒歩5分

図書室利用についてのご案内

センター内にある図書室は、どなたでもご利用できます。貸出しも行っています。

- 図書 専門書、一般向け雑誌など
- ビデオ 精神疾患の理解や精神障がい者の支援に関するものなど DVD
- パネル こころの健康、うつ、統合失調症、アルコール依存症やギャンブル依存症等各種シリーズがあり、研修会や各種行事等の展示としてもご利用できます。
※ホームページにパネル等を掲載しています。

宮崎県精神保健福祉連絡協議会

宮崎県精神保健福祉連絡協議会や関係各団体の活動など精神保健福祉の取り組みを紹介しています。

アドレス <https://www.miya-seiren.com/>

宮崎県精神保健福祉センター

〒880-0032 宮崎市霧島1丁目1-2 宮崎県総合保健センター4階

TEL : 0985-27-5663 / FAX : 0985-27-5276

アドレス <https://www.seihocenter-miyazaki.com/>

毎年
4/2は

国連の定めた

世界自閉症啓発デー



World Autism Awareness Day

※国連が定める啓発デーには、3月21日の「世界ダウン症の日」もあります。

発達障害啓発週間 4月2日～8日

みんな たいせつ



つながる えがも

123
SESAME STREET

セサミストリートには、多様な豊かなキャラクターがたくさん登場します。オレンジ色の髪をした女の子「ジュリア」は、自閉症の特性があるキャラクターです。
Sesame Street® and related characters, trademarks and design elements are owned and licensed by Sesame Workshop. ©2025 Sesame Workshop. All rights reserved.

応援メッセージを
募集しています

日本各地で啓発イベントが行われます。詳しくは公式サイトへ

世界自閉症啓発デー 日本実行委員会公式サイト
<https://www.worldautismawarenessday.jp/>

🔍 啓発デー

#世界自閉症啓発デー



主催

厚生労働省(発達障害情報・支援センター)
一般社団法人日本自閉症協会

共催

文部科学省 こども家庭庁 国立特別支援教育総合研究所 全日本自閉症支援者協会 日本自閉症スペクトラム学会
日本発達障害ネットワーク 発達障害者支援センター全国連絡協議会 全国情緒障害教育研究会
全国児童発達支援協議会 自閉症児者を家族にもつ医師・歯科医師の会 国立重度知的障害者総合施設のおもひの園

お問い合わせ先

一般社団法人日本自閉症協会

Tel.03-3545-3380 Fax.03-3545-3381

✉ asj@autism.or.jp